

『万国菓子舗お気に召すまま』

薔薇のお酒と思い出の夏みかん』

溝口 智子／著 マイナビ出版（2016年）

「お気に召すまま」は世界中のお菓子を作る老舗お菓子屋。辛いケーキや夢の中で食べたお菓子など、たとえどんなお菓子でもお客さんの要望に応じて作り出す。いつも仕事の邪魔ばかりする常連のフードライターまだらめの斑目は仕事で使うからと大嫌いな夏みかんを使ったお菓子を頼む。見ただけでも気分が悪くなるほど嫌な思い出が詰まっている夏みかんをお気に召すままの店主・壮介は夏みかんの花をイメージしたクッキーをつけた愛らしいケーキにして斑目に渡す。

『プシュケの涙』

柴村 仁／著 講談社（2014年）

「あいつは、自殺なんか、しない」——夏休み、校舎の四階から転落死した女子生徒・吉野彼方。誰もが飛び降り自殺と信じて触れようとせず、風化していく彼女の死の真相を、追求しようとする生徒がただひとりいた。吉野と同じ美術部の由良。彼だけが、吉野の描きかけの絵の存在を知っていた。あの絵を置いたまま死ぬなんてありえない。由良は僕に、自殺の理由を探ってみないかと誘いかける。生きている吉野彼方の最後の姿を見た、僕に。

『夏の夜の夢・あらし』

シェイクスピア／著 福田 恆存／訳
新潮社（2003年）

妖精の王オーベロンは、妻のタイターニアと小姓をめぐって喧嘩をします。そこで、オーベロンは夏至の前夜、妖精パックに惚れ薬を渡し、タイターニアを困らせるよう命じます。時同じくして、芝居の練習に来た6人の職人たち、駆け落ちをする恋人同士たんのうのライサンダーとハーミア、ハーミアの婚約者デメトリアス、デメトリアスに恋をするヘレナが妖精の森に入りますが、そこで騒動が起こります。シェイクスピアの喜劇をご堪能ください。



『夏期限定トロピカルパフェ事件』

米澤 穂信／著 東京創元社（2006年）

清く慎ましい小市民を目指す、恋愛関係にも依存関係にもないが互恵関係にある小嶋こけいくんと小佐内おさないさんの高校二年の夏休み。夏休みの初日、〈小佐内スイーツセレクション 夏〉という素敵な地図と共に、いつになく積極的に小嶋くんに誘う小佐内さん。二人でスイーツコンプリート計画を実行していたある日、小佐内さんが誘拐されるという事件が起こります。はたして、この夏二人はおいしくトロピカルパフェを食べることができるのでしょうか。

『ひとなつの。真夏に読みたい五つの物語』

大島 真寿美／（他）著 角川文庫編集部／編
KADOKAWA（2014年）

浪人生の青年は二十歳になる年の夏にアルバイトを辞めました。自分の必要性を全く感じないアルバイトは、暇過ぎて気持ちが押しつぶされそうだったからです。受験勉強はどうかというと、少しもはかどりません。そもそも次の受験で合格できる気もしません。鬱屈うっくつした日常を抜け出したいと、青年は青春18きっぷを片手に一人旅に出ることにしました。

（『ささくれ紀行』藤谷 治／著）

『キシャツ』

小路 幸也／著 河出書房新社（2012年）

1両編成の電車は、岡橋から上ノ旗に停まって、高校のある馬駒までずーっと海岸線をゆっくりゆっくり走っていく。夏休みのある日、浜辺に張られた真っ赤なテントにいる謎の男の子をキシャツ（＝汽車通学）中の6人がそれぞれ偶然見つけてしまう。彼は東京から来た高校生、宮谷光太郎。小学生の時、突然いなくなった血のつながらない姉を探しに来たと言うのだ。6人は彼に協力することに。物語は、はるか、光太郎、紗絵、良夫の4人の視点でリレー方式に進んでゆく。